平成 29 年度企画展

文化財案内板でめぐる

宮代町

休館日 7月18·24·31日

8月7·14·15·21·28日

9月4·11·19·25~29日

10月2・10・16日









宮代町郷土資料館

345-0817

埼玉県南埼玉郡宮代町字西原 289

TEL 0480-34-8882 FAX0480-32-5601

開催にあたって

文化財案内板は、平成8年度から現在まで(平成29年7月)に37か所で設置されています。この他、ふるさと歩道の案内板や神社仏閣が建てた解説板、町役場の他部門が建てた解説板、資料館屋外施設の解説板を含めると53か所にも及びます。

最近、住民の皆様の中には健康づくりを兼ね、ウォーキングやサイクリングを楽しまれている方が増えているようですが、その中には、文化財案内板を利用してウォーキング等をされている方も多いと聞きました。

郷土資料館では、これまで、平成16年度に企画展「宮代再発見 写真でめぐる 文化財展」を、平成21年度には企画展「みやしろ 歩け歩け!~写真で見る宮代 の歴史と文化財」と2回に渡り、町域の文化財を歩く設定の企画展を実施してきま した。今回の展示会は8年ぶり3回目の展示となります。

今回の展示では和戸駅周辺で3コース、東武動物公園駅周辺で2コース、姫宮駅周辺で2コース、町域の鎌倉街道をめぐるコースの計8コースを設定しました。現地で、実際のコース上の建物や案内板は見てもらい、現地で見ることができない資料をこの展示会で見てもらいたいと思います。遺跡などは発掘調査終了後には埋め戻されてしまうため、現地では見ることが出来ません。

この展示会で紹介したコースや文化財案内板を使い、是非、現地で見学して頂ければと思います。実際に町域を歩くことで、宮代町の良さを改めて発見できるのではないでしょうか。

凡例

平成29年7月15日 宮代町郷十資料館

- 1. 本書は、平成29年7月15日から10月22日まで開催される、宮代町郷土資料館平成29年度企画展「文化財案内板でめぐる宮代町」の展示図録です。
- 2. 展示の企画及び図録の執筆・編集は、当館学芸員河井伸一が担当しました。また、掲載した写真は、一部を除き、当館学芸員が撮影いたしました。
- 3. 本企画展で掲載した情報の中には、道路や個人の所有地など、住民の方の生活空間が多く含まれております。このパンフレットをご覧になり各地を見学される際には、お住まいになっている方に迷惑がかからないよう、十分な配慮をお願いいたします。
- 4. パネル等で○番とあっても、現在、文化財案内板が設置されていない場所もあります。
- 5. 資料提供、協力者等(順不同、敬称略) 深谷市教育委員会、埼玉県立文書館、森田宗助、渡邉文雄、鈴木敏男、谷沢良朗、 東条原鷲宮神社、前原地区、西原地区、小島雅郎、岩﨑文庫、折原静佑、戸田義一

文化財案内板の種類と個数

宮代町では平成8年度から文化財案内板の設置を開始しました。宮代町にある文化財案内板の種類は、笠付のタイプと笠なしのタイプ、高札型、資料館屋外展示用の傾斜台タイプ、標柱、ふるさと歩道型の6種類があります。高札型は学園台2丁目の道しるべのみです。笠なしのタイプも大字和戸の西方院のみです。いずれも、平成9年度と平成8年度に設置されたもので、文化財案内板設置事業の初期に設置されました。それ以外は、一部に標柱がありますが、基本的には笠付のタイプが最も多く設置されています。

宮代町では文化財案内板(資料館屋外展示説明板を除く)を町内113か所で設置する予定です。現在、42か所(ふるさと歩道を含む)に設置されていますが、修理や改築を計画している所もありますので再整備が終了したのは37か所です。文化財案内板設置予定地の内、約3分の1の場所で設置が完了した状況といえます。



標柱型 (愛宕神社)



ふるさと歩道改修型(青林寺・百間陣屋)



笠付きのタイプ (笠原沼)



笠なしのタイプ (西方院)



傾斜台タイプ (斉藤家住宅)



高札型(学園台道しるべ)

和戸駅東口の文化財案内

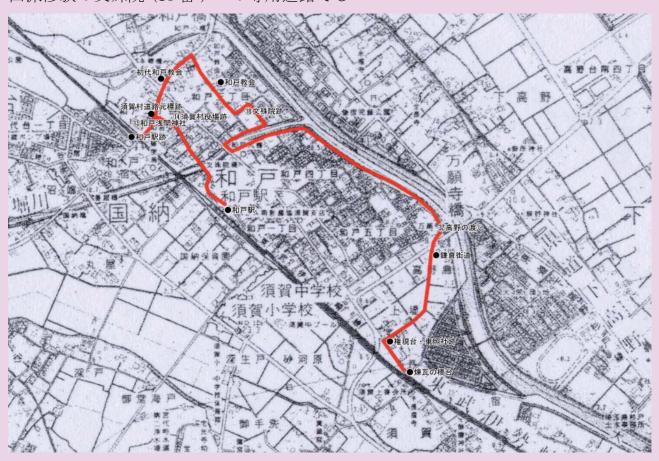
和戸駅から日光御成街道まで続く道が大 正8年(1919)に開通した和戸停車場道です。 それより以前の和戸駅は日光御成街道の踏切 付近にありました。和戸停車場道を歩いて行 くと和戸公民館が見えます。この場所は須賀 村役場でした。ここには須賀村役場(14番) の案内板があります。また、当時の門柱も 残っています。御成街道とのT字路には須賀 村の道路元標がありましたが、現在は残って いません。左へ曲がると和戸浅間神社(13番) があります。御成街道を杉戸方面に歩くと和 戸交差点がありますが、ここのコンビニ辺り に初代和戸キリスト教会がありました。現在 は御成街道を右折した所(15番)に移転し ています。ちなみにこの道路はかつて、本 山派修験の文殊院(18番)への専用道路でし

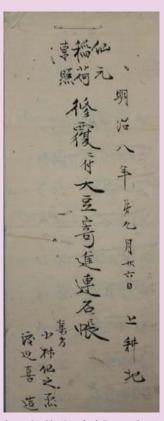


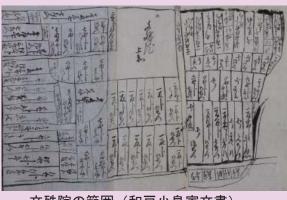
須賀村役場の門柱



旧和戸駅跡







文殊院の範囲 (和戸小島家文書)



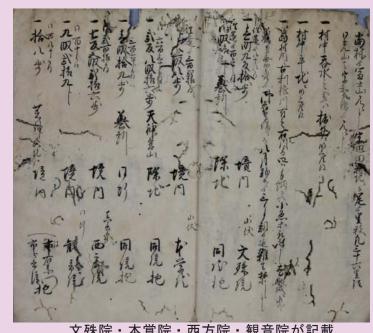
東照社修復が確認できる古文書 (須賀渡辺家文書)

鹿沼落堀煉瓦橋台

る上杉景勝討伐の際、徳川家康が小山へ行く途中ここで休んだと伝わっています。 江戸時代には東照社がありました。左に曲がると東武伊勢崎線と鹿沼落堀との交差 する所に煉瓦の橋台が残っています。上り線の橋台は明治32年(1899)に、下り線 は大正9年に造られました。

和戸駅北側の文化財案内

和戸駅東口から真っすぐ行き、県 道春日部久喜線で左へ曲がります。 更に日光御成街道で右に入りコンビニ脇で左に入ると、その道は旧粕壁 久喜道です。道なりに行くと西方院 (7番)があります。さらに北上すると宇宮神社・本覚院跡(5番)がありますが、その途中に故録社(6番)があります。和戸地区の神社は明治40年(1907)代の全国的な村社への合祀の時、氏子が合祀に同意しなかったため、現在まで小規模な神



文殊院・本覚院・西方院・観音院が記載 れる古文書(和戸鈴木家文書)



番)があります。天神社前の住 宅地が和戸村の名主を務めた屋 号「ダンナサマ」こと小島七左 衛門宅跡です。南下しながら県 道春日部久喜線に向かいます。 途中で右に入り線路を目指しま す。前方の小高い山は愛宕神社 (4番)です。左手前方の東武伊 勢崎線と備前前堀の交差する場 所には煉瓦の橋台が残ります。 県道春日部久喜線に戻り、南下 すると左側に墓石が数基確認で きます。この場所は観音堂跡(8 番)で、西方院の十一面観音像

覚院は本山派修験の寺院で、現

す。更に北に向かうと天神社(2)

は元々観音堂(観音院)の本尊であったもの を、廃寺になった時に西方院へ移しました。 廃寺になった後の建物は和戸学校に利用され ましたが、明治19年に粂原学校(現在の須 賀小学校)に吸収されました。和戸交差点付 近には初代和戸キリスト教会や和戸教会と関 係のある篠原大同医院もありました。北側へ 曲がると、岩槻藩の藩校遷喬館の創始者で あった児玉南柯の友人であり、和戸村の名主 を務めた吉田与右衛門宅などもあります。和 戸橋にはかつて和戸橋の河岸がありました。 幸手の琵琶溜井から松伏の松伏堰までの区間 ですが、多くの船が往来していました。河岸 場の近くの屋号「ウロコヤ」には水害の際の 避難場所である水塚が残っています。



観音堂(観音院)跡



和戸橋の河岸

和戸駅南側の文化財案内

和戸駅の南側隣接地には大正3年(1914) まで須賀村役場がありました。和戸停車場 道から御成街道を左折し踏切や姥ヶ谷落堀 を越えて、左折すると国納村の鎮守であっ た雷電神社(16番)があります。東武伊勢 崎線と備前堀との交差する場所には煉瓦の 橋台があります。上り線は明治32年に、下 り線は大正9年に建造されました。御成街 道へ戻り白岡方面に向かうと「左富士」と 呼ばれる絶景のポイントがあります。今ま では道路の右手に富士山が見えていました が、この場所からは左手に変わるそうです。 将軍が日光社参から江戸へ戻る時にこの場 所で駕籠を止めたと伝わります。南下して いくと、左手に鹿沼用水と深生戸耕地の落 堀との伏越があります。さらに白岡方面に 向かうと左手には笠原沼代用水から鹿沼用 水の圦樋、笠原沼北側用水(中須用水)と 笠原沼南側用水(百間用水)を分水する西 粂原分水(12番)があります。その先には 西粂原村の鎮守の西粂原鷲宮神社がありま す。ここには西粂原鷲宮神社・御成道の案 内板(11番)があります。江戸時代最後の 天保 14 年 (1843) の第 12 代将軍徳川家慶 の日光社参では、この場所で小休憩をしま した。御成街道を戻り、右折し、番屋橋を 渡りしばらく行くと国納保育園があります。 ここは、国納丸屋遺跡(27番)です。石器 を製作した住居跡が発掘されています。まっ すぐ行くと真蔵院(26番)があります。こ こで鎌倉街道は二手に分かれました。東側



須賀村役場跡



備前堀の煉瓦の橋台



西粂原分水



西粂原鷲宮神社



の鎌倉街道の一部を横丁通りといいます。突き当りは長福寺(28番)です。線路の 向かい側には本山派修験の龍光院(109番)がありました。

東武動物公園駅東口の文化財案内

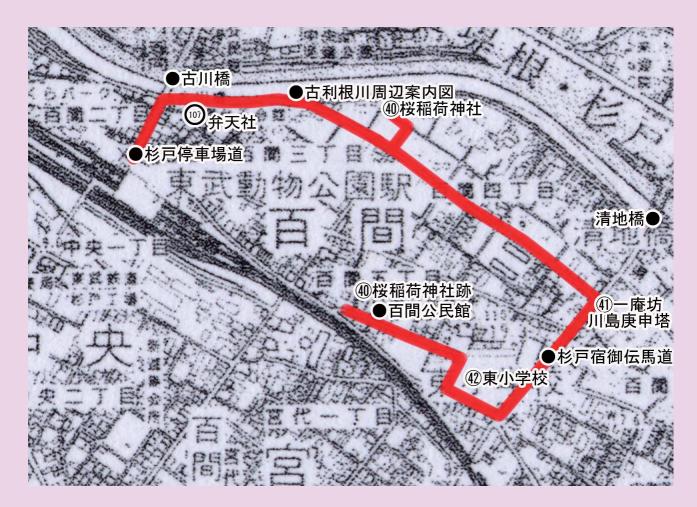
東武動物公園駅は昭和56年(1981)以前、 杉戸駅と呼ばれていました。杉戸駅は明治 32年(1899)に東武鉄道開通と共に設置され た駅です。杉戸駅から日光街道までの道を 杉戸停車場道と呼びます。鉄道開通に伴い 古川橋は架けられました。古川橋の手前を 右折し更に右折すると弁天社(107番)があ ります。元は午高入百間村新田の池のたも とにあったそうです。古利根川沿いに南下 すると、大落古利根川周辺案内図がありま す。南東側に歩いて行くと桜稲荷神社(40 番)があります。元は百間公民館付近にあ りましたが、平成10年(1998)に現在地に 移転しました。本地域は江戸時代に佐倉藩



杉戸駅東口(昭和50年代)



弁天社



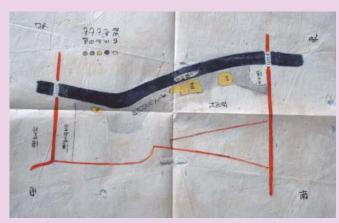
領であったため、佐倉の稲荷神社を分祀し ましたが、あまりに恐れ多いとのことで「桜」 稲荷神社となったとのことです。南東へ進 むと県道蓮田杉戸線に突きあたります。県 道蓮田杉戸線は江戸時代、杉戸宿御伝馬道 と呼ばれていました。百間村の多くの人々 がこの道で杉戸宿に行きました。突きあた りを右に曲がると一庵坊と川島庚申塔群(41 番) があります。延宝4年(1767)の庚申 塔は宮代町で最も古いものです。東小学校 (85番) は昭和8年に百間小学校川島分校と して設立されました。今でも、昭和30年に 建設された木造2階建ての校舎が残ってい ます。線路に沿って歩くと百間公民館が見 えます。この先の右側に桜稲荷神社があり ました。



桜稲荷神社



川島庚申塔群



午高入百間村新田絵図 (百間折原家文書)



東小学校木造校舎

東武動物公園駅西口の文化財案内

東武動物公園駅西口広場は、かつて東武 鉄道杉戸工場(104番)でした。昭和18年 に設置され、昭和40年代までは、東武鉄道 の貨物輸送を担う蒸気機関車の整備工場で したが、その後、平成16年に全ての役割を 終えました。西口駅前には、一部のレール や転轍器(分岐器)、当時のレールの跡がモニュメントとして残されています。駅前通 りを進むとコミュニティセンター進修館と 宮代町役場が見えます。宮代町役場の横に は蒸気機関車が展示されています。この蒸 気機関車は明治31年にイギリスで製造され、 大正11年からは東武鉄道で使用されました。 昭和41年廃車となり、川越市初雁公園で展



東武鉄道杉戸工場



蒸気機関車



石橋堰の堰枠跡



笠原沼新田







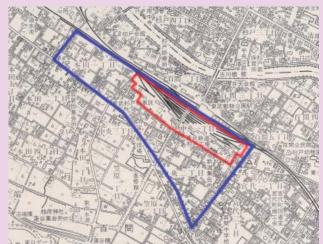


重殿社

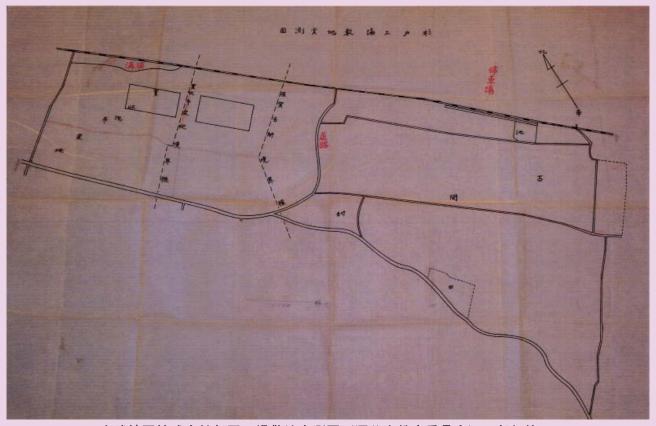
示されていましたが、その後、東武鉄道に返却され、杉戸工場に保管されていました。 平成6年に宮代町に移管され、この場所で展示されています。中須用水(笠原北側 用水)、姫宮落堀を越え、保健センターと笠原小学校の間を抜けると図書館がありま す。図書館の端を南下し、橋を渡ると笠原沼新田(48番)です。笠原沼落堀の石橋 堰には堰枠の痕跡が残ります。南に見える林はさいたま緑のトラスト保全第5号地 の山崎山の雑木林です。山崎山には重殿社(49番)、赤松浅間社(47番)、山崎遺跡(50 番)の文化財案内板があります。山崎山から笠原小学校と東武動物公園の間の道を 抜け姫宮落堀を越え左に曲がると、やがて蓮谷稲荷神社(83番)が見えます。ここ



杉戸駅付近航空写真(昭和49年)



- 東武煉瓦株式会社杉戸工場
- □ 東武鉄道株式会社杉戸工場



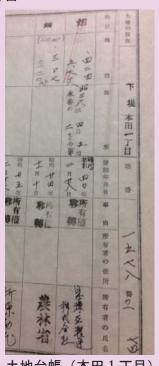
東武煉瓦株式会社杉戸工場敷地実測図(深谷市教育委員会)一部加筆





蓮谷稲荷神社

から北側へ向かうと辰新田集会所があります。かつては、辰新 田稲荷神社の境内地でした。現在、安養庵・辰新田浅間神社の 文化財案内板(38番)が建っています。ここから県道春日部 久喜線で右に曲がり、すぐ左に入るとしばらく行くと女躰宮(39 番)があります。女躰宮付近までが東武鉄道杉戸工場でした。 なお、本田1丁目から東武鉄道杉戸工場やその南側一帯、県道 春日部久喜線北側には日本煉瓦株式会社の関係会社である東武 煉瓦株式会社の杉戸工場が建設される予定でした。明治40年 頃日本煉瓦株式会社は宮代町で土地の買収を行っていることが 確認できます。



土地台帳(本田1丁目)

姫宮駅東口の文化財案内

姫宮駅東口を右へ向かうと突 き当ります。ここは東武鉄道春 日部検修区(現在は南栗橋車両 管区春日部支所)です。宮代町 には東武鉄道の主要な拠点施設 が杉戸工場と春日部検修区と2 か所もありました。川端4丁目 の信号を川端集会所の方へ向か



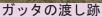
東武鉄道春日部検修区(昭和41年)

い古利根川に突きあたった所がガッタの渡し場(100番)です。近くの島村さんが 渡しの経営をされていました。江戸時代には木造の板橋があり、春日部市の小渕へ 渡れました。川端4丁目の信号から中洲島橋を望むと県道が周囲より低いことが分



91番)。ここ は、古利根川 の西側流路の 跡です。古利 根川は宮東グ ラウンド南側 で二筋に分か れました。東 側流路が本流 で現在の古利 根川です。西 側流路は、延 享2年(1745) に廃川となり ました。西側 に向かうと県 道春日部久喜 線の旧道と交 差します。こ の付近にあ る川端庚申 神社(81番) は、元々川端



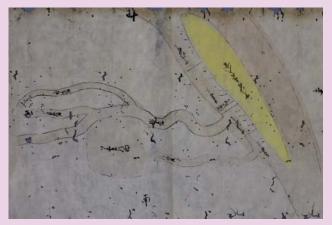




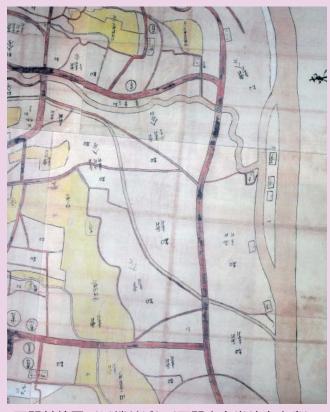
川端庚申神社



川端付近航空写真



していました。現在でも高低差を確認することが出来ま す。川沿いを北側に向かいます。この辺り一帯は古利根 川の流作場(河川敷であまり作物が取れない場所)で午 高入百間西原村新田でした。寛延2年(1749)に開発さ れた新田です。宮東橋付近にも渡し場がありました。矢 島の渡し(102番)です。矢島家が経営していました。 昭和25年に宮東橋が完成するまで営業をしていました。 宮東橋を渡ると杉戸町の大字堤根です。日光道中の宿場 間の休憩所である立場がありました。南公民館は堤郷村 役場や堤郷小学校、堤郷中学校の跡地です。



百間村絵図(川端付近)(百間中島岩崎家文書)

地区にすむ百間中島村の住民の神様で したが、現在は川端地区全体の鎮守と なっています。ここから、宮東橋方面 に向かいます。川端公民館を過ぎ宮東 グラウンドで右に入り古利根川に突き あたった辺りが紺屋の渡し(101番)で す。成田家が経営していました。この 古利根川西筋不用取替申一札 (百間中島岩崎家文書) 辺りより南側で古利根川が東西に分流



地引図 (字川端)





紺屋の渡し跡

矢島の渡し跡

姫宮駅西口の文化財案内

姫宮駅西口から真っすぐ行き、突きあたりを左折します。コンビニのある信号を 右折すると西光院の東側の総門跡である東神外に至ります。ここには堀(現在は用 水路)による食い違いの虎口(出入り口・門)が見られます。江戸時代には榎が2 本立っていました。西側に進むと若干高くなります。最も高い場所の左手には東光 院(112番)がありました。さらに進むと左手の地形が低くなっています。ここに は弁天池がありました。弁天池の中央には厳島神社が、隣には池ノ坊がありました。 右手は西光院(80番)です。山門は昭和60年頃に再建されたものですが、昭和27 年に焼失した四足門は室町時代のものと伝わります。西光院は昭和27年に焼失する 以前は玄関・庫裏・客殿・書院からなる荘厳な建物でした。信号を渡って左手には





東神外食い違いの虎口



東光院跡



西光院本堂



五社神社本殿

県指定文化財五社神社(75番)があります。境内には町指定文化財の多少庵南枝の句碑(76番)や多少庵の俳額があります。五社神社の隣には雷電社が、その隣には阿弥陀堂(77番)がありました。阿弥陀堂は百間山光福寺西光院の本堂です。本尊の阿弥陀三尊像は国の重要文化財です。墓地には寛政12年(1800)に西光院を再建した住職の尊明の墓石もあります。尊明は、文化4年(1807)に神君御宮(東照宮)も再建しました。墓地を過ぎると左手が若干高くなっています。ここは、西光院の住職の隠居寺といわれる大蔵坊(113番)です。現在も現住職家

(吉田家)の前の住職 家(会田家)が住ん でいます。更に進む と左手に観音寺(74 番)があります。観 音寺には百間東村の



西光院 22 世尊明墓石



多少庵句碑



大蔵坊跡

領主永井氏の家臣青井七右衛門の墓石が残ります。観音寺から見て、道を挟んで北東側には西光院領である大般若免が、北西側には江戸時代中期まで旗本永井氏の陣屋があったと推定される場所です。観音寺を過ぎると藤曽根(字姫宮)方面の道が分岐します。ここの丁字路には百

ていました。右側の道を行くと宝生院(61番)があります。宝生院の釈迦堂は7月12日頃に行われる前原のお獅子様の出発地でした。三叉路の中央には神外坊(69番)があります。左側の道を行くと前原中学校が見えます。中学校の校庭からは前原遺跡(70番)が発掘されました。さらに進むと「はらっパーク宮代」があり



西光院 阿弥陀堂



徳川家康画像



青井七右衛門墓石



西光院 客殿・玄関・庫裏

ます。信号の角には「ぐるっと埼玉サイクリングネットワーク 73 番のびのび宮代町を楽しむルート」の大案内板があります。これは埼玉県内をサイクリングで巡る案



中寺遺跡 (旗本永井氏陣屋跡)

内板です。この公園は彩の国まごころ国体アーチェリー場として整備されました。ここからは、金原遺跡(59番)が発掘されました。中の信号を北に向かいます。西原の信号より北側一帯が旗本服部氏の百間陣屋(57番)の跡です。ここから郷土資料館を目指します。郷土資料館には加藤家住宅や斎藤家住宅、旧進修館、縄



金原遺跡住居跡



百間陣屋跡 (伝承旗本服部氏屋敷跡)



かつての弥勒院(平成25年)



前原のお獅子様



金原遺跡から出土した遺物



百間陣屋跡出土遺物



百間陣屋(伝承旗本服部氏屋敷跡)の発掘調査 文住居があります。この他、菅聖公碑 や東武鉄道の煉瓦の橋台の一部も残り ます。資料館一帯は地蔵院遺跡(62番) でした。郷土資料館を過ぎると陣屋の 門と関係があるクランク(桝形)があり、 左手には地蔵院(63番)や百間小学校(84番)が、右手には百間村役場跡(64番) がありました。



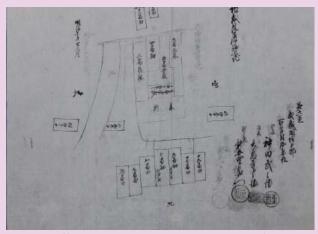
郷土資料館前のクランク (桝形)



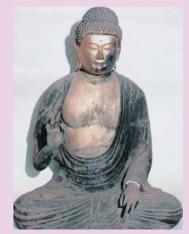
宮代町郷土資料館



笠原沼落堀の東武鉄道の煉瓦の橋台の一部



廃寺地蔵院明細図(百間西原組関係文書)



地蔵院阿弥陀如来像 平安時代末期~鎌倉時代初期

町域の鎌倉街道をめぐる

白岡市の高岩方面から御成街道の西条 原信号のかけての道が鎌倉街道です。鎌 倉街道を東進すると、この付近を中通と 呼びます。中須用水(笠原北側用水)を渡っ た左手には厳島神社がありました。その 東側には百間山西光院の末寺であった明 智寺(20番)がありました。現在は墓地 が残っています。左手に庚申塔の石造物 がある交差点を右に入りすぐ左に曲がる と東粂原字圦の前を通る鎌倉街道です。 字圦の前は昔からの家や本家が多いとい われています。白岡市爪田ケ谷方面への 道路を突き抜けると、宿場に入る前の桝 形(クランク)が残ります。突きあたり を左に曲がると字宿屋敷の集落です。北 側に進んだところで発掘調査が行われま



西粂原信号付近の鎌倉街道



中須用水・厳島神社・明智寺を望む



した。鎌倉街道と推定される溝状遺構や井戸、 方形竪穴遺構などが発掘され、戦国時代の集 落があることが判明しました。さらに進むと 東粂原鷲宮神社(23番)への参道が見えます。 鷲宮神社の隣には西光院の末寺であった大聖 院(24番)があります。大正5年に須賀小 学校に移るまでは、粂原小学校でした。交差 点の北側でも発掘調査が行われました。舗装 道路のように固い道路状遺構や方形竪穴遺構 が出土しています。北上すると桝形(クラン ク)が残ります。南側のクランクと北側のク ランク間が「宿場」であったのでしょうか。 このあたりから須賀になります。真蔵院(26 番)で鎌倉街道は二手に分かれます。左手は 真蔵院から渡辺家墓地に向かうルート、右手 は横丁通りから粕壁久喜道に合流するルート



東粂原宿屋敷遺跡から出土した内耳土鍋



北側のクランク (桝形)



宿屋敷入口のクランク (桝形)



発掘された鎌倉街道(東粂原宿屋敷遺跡)



東粂原宿屋敷遺跡から出土した遺物



真蔵院付近で東西に鎌倉街道は分岐



西側の鎌倉街道

です。丁字路付近には長福寺(28番)が あります。線路の向かい側にはかつて本 山派修験の龍光院(109番)がありました。 踏切を渡り右手付近の高台が権現台(110 番)です。関ヶ原の戦いの前哨戦である 会津征伐の時、徳川家康が小山へ行く途 中ここで休憩を取ったという伝承が残り ます。家康の馬を繋いだ欅の木があった そうです。加藤家墓地周辺には家康を称 え東照社が祀られました。高野島の鎌倉 街道は非常に良く残っています。現在は あぜ道のように小規模ですが、多くの人々 がこの道を通ったと推定されます。万願 寺橋通り線を突き抜けると高野渡し(32) 番)の案内板が設置されています。この 場所の上流 100m 弱の場所で高野橋の橋杭 が発見されたと伝わります。



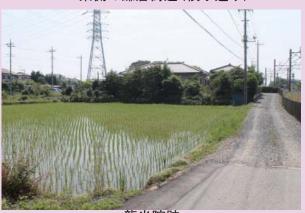
権現台



西側の鎌倉街道(渡辺家墓地前)



東側の鎌倉街道(横丁通り)



龍光院跡



権現台と書かれた古文書(須賀渡辺家文書)



権現台の東照社跡



高野島の鎌倉街道(南から)



高野島の鎌倉街道(南から)



高野島の鎌倉街道(北から)



高野の渡し(橋)跡



高野橋杭でつくった額 (須賀渡辺氏所蔵)

発行 宮代町郷土資料館

住所 南埼玉郡宮代町字西原 289

TEL 0480-34-8882 FAX 0480-32-5601

http//www.town.miyashiro.lg.jp